

# 第8号

# KenKouJi ニュース



2021（令和3）年1月20日  
神奈川県公立小中学校等事務研究協議会

会長 渡辺 卓夫  
広報部長 進藤 恵理子  
平塚市立大住中学校  
TEL 0463-54-0626

神奈川県公立小中学校等事務研究協議会ニュース

## 県公事研セミナー オンライン形式で開催しました 「変わる学校、そのとき事務職員は？」

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、大和市保健福祉センターホールで開催予定でした県公事研セミナーは、zoomを活用した全面オンライン形式での開催に変更となりました。当日の様子をお知らせします。

### 【講演】

合同会社ライフ&ワーク代表でNPO法人まちと学校のみらい理事でもあり、教育研究者として学校づくりや教職員の働き方改革などで講演会や著書出版を多数行っている、妹尾昌俊氏による「変わる学校、そのとき学校事務職員は？」と題しての講演がありました。途中、zoomがもつチャット機能（リアルタイム型の掲示板）を活用した講師と質問・意見を交える機会や、ブレイクアウトルーム機能（自動グループ分け機能）を活用した数人単位での6分間のグループワークを交えながら、オンラインで学校事務職員相互の意見交換も行う貴重な機会となりました。

### 【講演概要】

「変わる学校、そのとき学校事務職員は？」のテーマで、新型コロナウイルス流行により新たに発生した課題についても踏まえながら、学校事務職員に考えて欲しい課題について問題提起を行った。



・「少人数学級になると、きめ細かく支援できる。」「ルールを守ることを学ぶ必要がある。だから校則は大事だ。」などの校長・教頭・教員が当たり前だと思っていることに対して、唯一の行政職の立場であり、教員とは違う立場でもある学校事務職員の視点から、一度ゆっくり立ち止まって考えてみて欲しい。

・「働き方改革や業務改善が進まないのは、保護者の協力がなかなか得られないから。」という言葉は本当なのだろうか。学校側は保護者側と情報共有・コンセンサスがきちんと図られていないことがある。「クリティカル・フレンド（批評してくれる理解者）」としての視点から、相手の発言に対して建設的な意見や発言を行ったり、議論を深めたりすることが必要である。学校事務職員は、教員や職員室での意見や発言に対して、一歩離れた立場で積極的に考えてみて欲しい。

・休校期間中で再検討を余儀なくされた学校行事のあり方についても考えてみたい。岐阜県白川村立義務教育学校・白川郷学園における、臨時休校期間中の取り組みを紹介する。児童生徒の声を踏まえた上で修学旅行代替案のアイデアを企画したとの事である。児童生徒が主体となって練り直した修学旅行で

学習したことをもとに、白川村への学校提案を村議会においてプレゼンテーションする予定との事である。学校行事や修学旅行に関する問題は、新型コロナウイルス流行前から発生していた問題なのであり、コロナ禍でより可視化された問題でもあるといえる。コロナ禍だから学校行事や修学旅行を縮小・中止していくのは仕方がないと思えるのではなく、この時期だからこそ、修学旅行や学校行事がもつ目的や大事さについて一度考えてみる必要がある。

・コロナ禍で学校事務職員は何に貢献できているのだろうか。例えば、収入減少や失業などに伴う家計の急変に対して就学援助等の案内を適切に届ける行動や、教育委員会のみならず市福祉部局等と連携するなどの行動はできただろうか。学校事務職員の仕事や役割について、この機会にぜひ考えてみて欲しい。

・学校事務職員は、学校でどのような仕事をしていきたいのだろうか。学校事務職員の仕事に対する理念をもちながら、学校で事務処理をするだけではなく教員が気付かないことを積極的に提案することや、教員とは違う目線で物事を言える人であって欲しい。

・新型コロナウイルス流行の影響で、学校・教職員のやることは増える一方である。働き方改革・業務改善は何のためだろうか。労働時間過多は不健康と関連しているという厚生労働省によるデータもある。「児童生徒のために仕事をする」のは、本当に児童生徒のためになっているのであろうか。子ども・大人双方の健康を維持しなければならないということも踏まえながら、学校の負担軽減・働き方改革について考えていくことが求められる。

・家庭の貧困問題と学力はリンクすると研究結果で言われている。教職員の働き方にもリンクしている。場合によっては学校全体に悪循環をもたらすことがある。これが今日における日本の公立学校が抱える課題であると考え。個々ができることやアプローチできることについて主体的な立場で考えてもらい、学校事務職員ならではのアイデアを学校や事務研究会などで積極的に出して欲しい。

・学校の働き方改革について学校事務職員としてどのようなアプローチができるのか。長野県塩尻市における学校事務研究会を紹介する。市教委担当者も参加して学校と市教委が協働して業務改善や課題検討を積極的に行っているとの事である。お互い知恵を出し合って新たな方向性を見つけ出して欲しい。共同実施・共同事務室を活用し、個々がもつ得意な部分を出し合ってお互いで補っていく取り組みを積極的に行っていくことが大事である。講演会で聞いたことや学んだことを踏まえて、今後行動していきたいことを考えていくことが期待される。

「編集担当：広報部 武井」

## 今後の県公事研 主な予定

2月 第2回研修会（机上）を開催予定です。

第2回研修会は、新型コロナウイルス感染症にかかる情勢により、県公事研ホームページにて机上研修とさせていただきます。  
詳細は、後日KKJニュースやホームページでお伝えしてきます。



「KKJweb」のQRコード